

形容詞の中日対照

—日本語から中国語に翻訳される際の考察—

孫 琦

1. はじめに

本稿は中国語と日本語の形容詞について、動詞を修飾する連用用法に限って考察を行う。

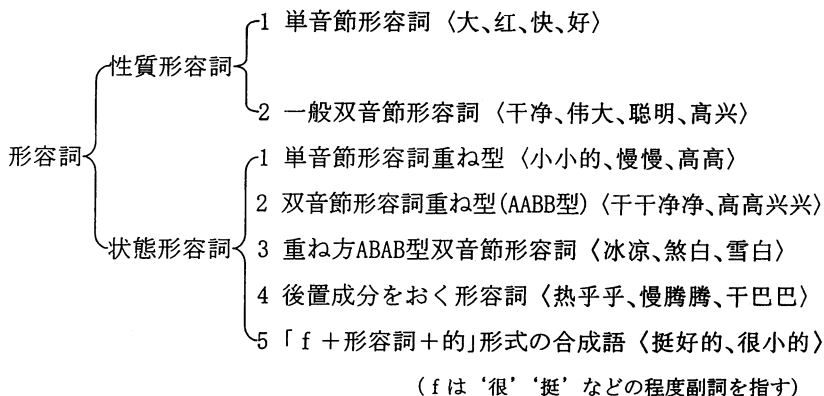
連用用法で用いられる形容詞は連体用法あるいは終止用法に比べ異なる意味機能を示す点において、日本語と中国語は共通する。動詞を修飾する場合において、日本語では、[形容詞連用形+動詞]という一つの構文に対し、中国語では必ずしも一つの形で対応するとは限らないというところに注目し、日本語と中国語の形容詞の基本的な文法機能を明確にした上で、その対応関係を整理する。考察した結果をさらに分析し、修飾語と被修飾語の意味関係から、日本語の形容詞と中国語の形容詞の連用修飾機能における異同と、それぞれの特徴を明らかにすることを目的とする。

日本語においては、連体用法あるいは終止用法に比べ、連用用法で用いられる形容詞は動詞との共起制限が厳しいことがきわめて特徴的である^{註1}。修飾語と被修飾語との共起関係という観点から形容詞の意味機能をとらえ、中国語と日本語を対照することによって、それぞれの言語における形容詞の特徴がより一層明らかになると考える。

2. 日本語と中国語の形容詞について

2.1 分類

考察を行う前に、日本語と中国語の形容詞の分類や機能について簡単にまとめておく。日本語の形容詞は、「属性形容詞」と「感情形容詞」に分類されるのが一般的である。中国語では、朱德熙1982により、形容詞の意味と形の両方から以下のように分類されている。



2.2 機能

- ・ 日本語：述語、連体修飾語、連用修飾語になる。
- ・ 中国語：謂語（述語）、定語（連体修飾語）、状語^{註2}、補語^{註3}、賓語（目的語）、主語になる。

〔謂語〕她很漂亮（彼女はきれいだ）

〔定語〕伟大的祖国（偉大なる祖国）

〔補語〕玩得高兴（楽しく遊ぶ）

〔状語〕深挖（深く掘る）／仔细地研究（細かく研究する）

〔賓語〕我觉得很舒服（私は気持ちいいと思う）

〔主語〕太点儿好（すこし大きいのがいい）

ここで一つ注目すべきことは、日本語で述語を修飾する成分である連用修飾語に対し、中国語では「状語」と「補語」の二つの文成分が相当するという点である。そのため、それらがどのように対応しているかが問題となる。形容詞による連用修飾句の実際の文中の用法となると、日本語と中国語の対応関係はさらに複雑となる。

2.3 先行研究

鈴木1987では、日本語の形容詞が連用修飾の形をとっているものを中国語文法に当てはめ、次のように仮分類を行っている。

- 1) 形容詞(?) + 動詞
- 2) 形容詞 + 「地」 + 動詞
- 3) 動詞 + 「得」 + 形容詞
- 4) 構造の変換

1)と2)に分類されたものは形容詞(副詞と考えられるものも含む)が「状語」として動詞を修飾する場合で、3)に分類されたものは形容詞が「補語」として動詞を修飾する場合であると考えられる。形容詞の連用修飾において、中国語と日本語ではその対応関係が一对一のような単純な関係ではないことを指摘した意味ではきわめて先駆的な研究であると思われる。実際の翻訳作品の中では、日本語と中国語の形容詞の連用修飾機能の対応関係がどのようになっているか、ということをもう少し詳しく考察する必要があるように思われる。形容詞の文法的特徴の一つとして、述語を修飾するという機能においては、それぞれの言語の中で、実際にどのようなシンタクスの中で現れるかという点について見る必要がある。鈴木1987に触発されて、疑問に思った部分を解明しようと思い、今回は日本語を中心に翻訳作品で採集された実例に基づき、日本語と中国語の形容詞の連用修飾機能における異同及びそれぞれの特徴について分析を試みたい。

3. 用例資料

今回は日本語から中国語への翻訳作品三つを資料にした。原作における時代の差は考察の対象にはあまり反映されないと考え、以下の作品を選んだ。

- ・ 三島由紀夫 『金閣寺』 CD-ROM版『新潮文庫の100冊』 新潮社1995
《金閣寺》唐月梅译 译林出版社1998
- ・ 川端康成 『雪国』 CD-ROM版『新潮文庫の100冊』 新潮社1995
《雪国》叶渭渠 唐月梅译 外国文学出版社1998
- ・ 村上春樹 『ノルウェーの森』村上春樹 講談社1987
《挪威的森林》林少华译 漓江出版社1999

なお、用例採集の基準は以下の通りである。

【形容詞連用形 + 動詞】を含む文を採取する。ただし、以下の場合を除く。

①修飾語に「する、なる」および「思う、感じる、見える」などの動詞を含むもの、つまり内容修飾の場合を除く。

例：「悲しく思う」

②並列の場合を除く。

例：「目が大きく澄んでいる」

以上の用例採取基準に基づき、三つの作品から140例とその訳文を集めた。

4. 考察及び分析

4.1 連用修飾で用いられる日本語と中国語の形容詞の対応パターンの整理

採集した用例に基づき、日本語では形容詞による連用修飾の形が中国語訳ではどのような構文で現れたかによって分類する。(作品名は略語で示した)

[1] 僕はその井戸の様子を[細かく描写する]ことだって出来る。(森)

我甚至能够[详细地描出]那口井的模样。

中国語訳では、形容詞「详细」が動詞の前に置かれ、状語として「描出」の程度を表している。

[2] なにしろ彼が飛躍するたびに——それも実に[高く飛躍した]——その震動でベッドがどすんどすと上下したからだ。(森)

因为他每跳一次也确实是[跳得很高]就会震得我的床上下晃动、嘎嘎作响。

中国語訳では、形容詞「高」が動詞の後に置かれ、補語として「跳」の高さを表している。

[3] だらしない口もとも、いつものように、[薄くあいていた]。(金)

她那带轻化的嘴角像平时一样[微微地张开],

中国語訳では、「口のあいている」程度を副詞の「微微」を用いて表現している。動詞の前に位置するため、状語となる。なお、形容詞か副詞かの品詞の判断基準は『講談社中日辞典』に求めた。

[4]a Tシャツの背中にはアップル・レコードのりんごのマークが[大きく印刷されていた]。

T恤の背上印着一个苹果牌唱片的大苹果商标。(森)

日本語では「大きく」という形容詞の連用形をとって動詞を修飾しているのに対し、中国語訳では「大苹果商标」(「大きいりんごのマーク」)というように形容詞の連体修飾の形をとっている。

b 修繕は[永くかかり]、工員は首をかしげるばかりで、(金)

修繕的时间很长，工人遇到难题，一味歪着脑袋。

日本語の「永くかかる」という連用修飾の構文に対し、中国語訳では「修繕する時間が長い」のように、形容詞の終止用法が用いられている。

[5]a 下宿の娘はすべてに無関心で、[低くはやり唄を口吟んでいた]。(金)

公寓房东的姑娘对这一切漠不关心，只顾低声地哼着流行歌曲。

日本語の「低く口吟む」の中国語訳として、「声を低めて口吟む」のように形容詞の連用形ではなく、動詞の連用形を用いて「口吟む」の声の大きさの程度を修飾している。

b 一緒に外に出て[軽く食事しないか]と誘ってみたが、電話がかかってくるかもしれないからと、彼女は断った。(森)

我还邀她一起出去吃点东西，但是她说或许有人会打电话来而拒绝了。

日本語の形容詞「軽い」には様々な意味をもち、「軽く食事する」の場合の「軽い」は中国語の「轻」では表現できなく、この場合は、「ちょっと何か食べに行かないか」のようにまったく別の構文を用いて表現している。

4.2 まとめ

集められた用例に基づき、4.1のように日本語の形容詞の連用修飾の構文が、中国語ではどのように対応しているかを整理・分類し、以下のような結果が得られた。

(日本語)

(中国語)

形容詞連用形＋動詞→①形容詞が状語として動詞を修飾する場合：例1など57例

②形容詞が補語として動詞を修飾する場合：例2など8例

③副詞を用いて動詞を修飾する場合：例3など12例

④形容詞が連体修飾/終止用法で用いられる場合：

例4など23例

⑤その他の場合：

例5など40例

4.3 分析

日本語では形容詞による連用修飾の構文が、中国語に当てはめるといくつもの構文の形と対応することがわかった。興味深い点はいくつかあるが、今回は一つだけ取り上げて分析を試みる。④の形容詞が連用形をとって動詞を修飾する構文から、連体修飾の構文に転換する場合に着目したい。

日本語の形容詞による連用修飾の場合、形容詞の意味の係り先から二つに分けることができると考える。形容詞の表す意味が、

① 述語の動詞

② 動作行為の主体・対象

にかかわるの二つである。①としては、「素早く瞳をめぐらす」「軽く折り畳んだ新聞」「強く僕の頭を蹴る」のように使われるもので、この「素早く」「軽く」「強く」はそれぞれ、瞳をめぐらすスピードの速さ、新聞の折り畳みかたの程度、蹴る強さを表し、直接述語の表す意味にかかり、動きそのものの程度や様子について修飾する。②としては、以下のような例で、日本語では形の上では形容詞と動詞は飾りと飾られの関係にあり、連用修飾の形をとってはいるが、この場合の形容詞の表す意味はむしろ動きの主体や対象にかかっていると考えられるものである。この場合の中国語訳は形容詞の連体修飾の形をとっている。

[6] 新聞に小さく記事が載っている。(森)

(中) 只在报上登了一个小方块。(新聞に小さい記事が載っている。)

[7] りんごのマークが大きく印刷されていた。(森)

(中) 印着一个苹果牌唱片的大苹果商标。(大きいりんごのマークが印刷されていた。)

[8] 寺の徒弟生活は規則正しく送られた。(金)

(中) 寺庙的弟子过着纪律严格的生活。(寺の徒弟は規則正しい生活を

送った。)

[9] 北国の少女の頬の赤みがまだ濃く残っている。(雪)

(中) 她的脸蛋依然保留着北国少女那种艳红的颜色。(北国の少女の頬のような濃い赤みがまだ残っている。)

このように、修飾語である形容詞の表す意味が被修飾語の述語動詞に直接かかるのではなく、主体あるいは対象の状態を表すと考えられる場合においては、中国語では形容詞の連体用法が用いられている。事物の属性を表す形容詞が修飾語になる場合、日本語と中国語のこのような違いは特に顕著なようである。日本語では形容詞は連用形でも主体や対象の状態を表す場合があるので、その場合は連体修飾の構文に変換することも可能である。この場合の形容詞の意味は、被修飾語の動詞の意味を限定補足するというより、連用修飾節の中心的意味を担っていると言っても過言ではない。奥津1995-1997では、形容詞が連用修飾から連体修飾へ移動する場合についての指摘はあるが、本稿で問題とするのは形容詞が移動可能かどうかというのではなく、日本語の形容詞の連用修飾による表現と連体修飾による表現の表現意図の違いは何かということである。

例[7]の「マークが大きく印刷されていた」の場合、「もともと小さいマークを大きく印刷した結果、マークが大きく印刷されていた」と解釈することが出来る。また、「小さい紙に紙いっぱい大きくマークが印刷されていた」とでも考えられるわけである。一方「大きいマークが印刷されていた」の形容詞の連体修飾の場合、「大きい」は単に印刷されたマークの大きさを限定している。また、例[8]の「規則正しく生活を送る」と「規則正しい生活を送る」を比べても、形容詞の連用修飾のほうが、「規則正しく一日一日継続して生活を送っている」様子を表現しているのに対し、連体修飾の場合は単に「どんな生活か」という内容の限定にすぎないのである。このように、日本語では形容詞による連用修飾と連体修飾がともに成立する場合、表現の焦点や意図がどこにあるかによって使い分けている。このように考えると、例[6]～[9]の中国語訳は必ずしも正確な訳とは言えないのかもしれない。では、中国語ではこのような場合、連体用法ではなく連用

用法を用いて訳すことは出来るのだろうか。

例[6]～[9]を中国語の状語による連用修飾の構文を用いて訳すと、次のように、形容詞の連体修飾による表現に比べ、いずれも中国語として不自然な感じを与える表現となる。

[6'] ? 只在报上小小地登了个方块。

[7'] ? 大大地印着一个苹果牌唱片的商标。

[8'] ? 寺庙的弟子纪律严格地生活着。

[9'] ? 她的脸蛋依然浓浓地保留着北国少女的那种红颜色。

中国語の「小小地（小さく）」による連用修飾の用例は、《北京日報98》CD-ROM版を全文検索した結果、わずか1例しか見当たらない。一方、「大大地（大きく）」の用例は多く、その中には「大大地減少」「大大地提高」「大大地増強」のように、「減少する」「高める」「増強する」程度について「大きく」が連用修飾語として用いられているものがある。連用修飾句の中で主体の状態を表すものは用例の中ではやはり見当たらなかった。劉月華1982では、「中国語の形容詞が状語として動詞を修飾する場合、動作のしかたや程度あるいは動作主の情態について描写する作用が強い。」と述べている。例[6]～[9]の日本語のように、形容詞が動詞にかかっている、その意味が主体や対象の状態について形容する場合、中国語の状語による連用修飾の形では表現しにくいようである。一方、「登得很小」「印得很大」「生活得很有規律」「保留得很浓」のように、補語による連用修飾の構文に訳すことはできるが、文の表すニュアンスはもとの日本語の文と比べるとやはり違いが感じられる。中国語の形容詞の補語による連用修飾の場合、動詞のアスペクトが失われ「～すること」のように事柄としてとらえ、句の中心は補語にあり、「新聞に載ったのが小さい」「印刷したのが大きい」といったようなニュアンスが強い。この点について今後さらに多くの用例に基づき分析する必要があるように思われる。

5. おわりに

本稿は日本語と中国語の形容詞の連用修飾機能を中心に、日本語から中国語に翻訳された事例に基づき、日本語では形容詞による連用修飾の場合が中国語ではどのような構文と対応しているかを分類・整理した結果、中国語では五つのパターンが観察された。考察の結果に対する分析はまだ不十分で、これからの課題として、中国語形容詞の状語と補語による連用修飾と日本語形容詞の連用修飾機能の関係についてさらに追求し、中国語から日本語に訳された資料も用いて考察を進めていきたいと考えている。

注

- 1 詳しくは拙稿2000を参照されたい。
- 2 「状語」：文成分の一つ。動詞や形容詞などの述語を修飾する成分。被修飾語の前に置かれる。例えば、「认真(地)学习」の「认真」（「まじめに勉強する」の「まじめに」）。
- 3 「補語」：文成分の一つ。動詞や形容詞などの述語を修飾する成分。被修飾語の後に置かれる。例えば、「跑得快」の「快」（「速く走る」の「速く」）。

参考文献

- 朱徳熙1956 「現代漢語形容詞研究」『語言研究』第1期
1982 『語法講義』商務印書館
劉月華1982 「状語和補語的比較」『語学教学与研究』1
馬真・陸俊明1997 「形容詞作結果補語状況考察」『橋本萬太郎記念中国語学論集』
賀曉萍1999 「關於狀態補語的幾個問題」『語文研究』70期
鈴木義昭1987 「中日形容詞の対照—連用修飾作用をめぐって—」早稲田大学語学
教育研究所 (34)
中川正之1987 「中国語と日本語の形容詞—意図と結果—」『日本語学』vol16
奥津敬一郎1995-1997 「連体即連用？」『日本語学』連載1995/11-1997/9 明治書院
孫琦2000 「形容詞の連用修飾用法」『早稲田大学文学研究科紀要』第45輯第3
分冊
『講談社中日辞典』長谷川良一 監 講談社 1998

用例出典

(金)『金閣寺』三島由紀夫 CD-ROM版『新潮文庫の100冊』 新潮社1995

《金閣寺》唐月梅译 译林出版社1998

(雪)『雪国』川端康成 CD-ROM版『新潮文庫の100冊』 新潮社1995

《雪国》叶渭渠 唐月梅译 外国文学出版社1998

(森)『ノルウェーの森』村上春樹 講談社1987

《挪威的森林》林少华译 漓江出版社1999

《北京日報/北京晚報98全文数据光盤》CD-ROM 北京日報社 1999

(ソ ン キ)